

臨床研究「悪性汗器官腫瘍に対する化学療法の有効性に関する後方視的検討」について

筑波大学附属病院皮膚科では、標題の臨床研究を実施しております。本研究に関する問い合わせ、または研究への参加を希望しない場合は、担当者までご連絡をお願いいたします。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究対象

2010年1月1日から2020年12月31日までに悪性汗器官腫瘍の診断で化学療法を受けられた患者さんです。

② 研究の意義・目的・方法

悪性汗器官腫瘍は皮膚がんの中でも稀な腫瘍であり、多くの場合は外科的切除により根治が可能ですが、リンパ節転移や遠隔転移をきたした場合、その希少性から有効性の高い薬剤の開発は進んでおらず、また、確立された治療方法もほとんどない状況です。

単一施設の解析では、患者さんの人数も少ないため、本研究では、群馬大学医学部附属病院皮膚科を中心として、筑波大学を含む全国30施設と共同で研究を行うことにより、悪性汗器官腫瘍に対して、化学療法を受けた方に対して、臨床効果と有害事象の解析を行い評価します。この研究は2024年末までに症例情報を収集して解析する予定となっておりますが、対象となる患者さんは①に記したとおり2020年末までに筑波大学で治療を受けた患者さんのみとなります。なお、研究自体は2025年3月31日で終了する予定です。

③ 研究機関名・研究者名

この研究は群馬大学医学部附属病院皮膚科が中心となって行い、下記の通り、筑波大学を含む全国30施設が参加します。研究に参加している施設は、国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科、東京都立駒込病院皮膚腫瘍科、札幌医科大学皮膚科、岩手医科大学皮膚科、山形大学皮膚科、新潟県立がんセンター新潟病院皮膚科、筑波大学皮膚科、福井大学皮膚科、自治医科大学皮膚科、埼玉医科大学国際医療センター腫瘍

皮膚科、埼玉県立がんセンター皮膚科、慶應義塾大学皮膚科、千葉大学皮膚科、静岡県立静岡がんセンター皮膚科、信州大学皮膚科、三重大学皮膚科、名古屋市立大学皮膚科、滋賀医科大学皮膚科、京都大学皮膚科、京都府立医科大学皮膚科、和歌山医科大学皮膚科、大阪国際がんセンター腫瘍皮膚科、兵庫県立がんセンター皮膚科、川崎医科大学皮膚科、産業医科大学皮膚科、久留米大学皮膚科、長崎大学皮膚科、佐賀大学皮膚科、熊本大学皮膚科、琉球大学皮膚科です。

④ 保有する個人情報に関する利用目的

筑波大学医学部附属病院皮膚科で化学療法を受けた悪性汗器官腫瘍の患者さんの診療録から、年齢、性別、原発巣部位、原発巣サイズ、病歴に関する情報（前治療歴、後治療歴）、臨床病期、転移部位、血液所見（治療前血清 LDH 値, CEA）、病理学的所見（病型）、治療（投与薬剤、期間、中断、放射線療法）、治療反応性・予後、副作用を抽出し、解析を行うことで、日本における各種化学療法の有効性、安全性に影響を与える因子について検討を行います。個人が特定できるような写真及び臨床情報は一切使用しません。

⑤ 保有する個人情報の開示手続

ご本人の情報が使用されているかどうかについてお知りになりたい場合は下記の連絡先にご連絡ください。なお、既に解析が終わり学会発表などがされてしまった後では特定の情報を削除することが出来なくなりますのでご注意ください。

⑥ 保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先

筑波大学附属病院 〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：皮膚科 藤澤 康弘

電話・FAX：029-853-3128（平日 10：00-17：00）